

グラウンドワークとは・・・・

市民・企業・行政がパートナーシップをとりながら、地域の環境改善などを行う活動です。あなたも、ぜひ活動にご参加ください。
(文中でグラウンドワークをGWと表記することがあります。)

No.62 2017年(平成29年5月31日発行)

発行 特定非営利活動法人グラウンドワーク三島
〒411-0857 静岡県三島市芝本町7-11
TEL 055(983)0136 FAX 055(973)0022
URL <http://www.gwmishima.jp/>
E-mail : info@gwmishima.jp

GW三島のインターシップに台湾から2人の研修生



台湾の台北市より、張琬珮（呼称：ジェイ）さんと曾佳琦（呼称：チイ）さんが、GW三島のインターシップのために来日。ジェイさんは昨春結婚したばかりで、チイさんは2児の母。家族がいても、女性が海外で学ぶことが出来る時代になったと実感。2人は、4月下旬より約1ヶ月間、三島に滞在して、多くの体験をし、学び、交流を深めた。家族とは、パソコンを使ってマメに連絡をとっており、時には、ネットで台湾との会議も行われていた。

5月11日、鎧坂公園で草刈、剪定作業を実施。雑草を根から取り除く作業で8袋も除去。ここはヒヨドリがエサを求めて来る生態系豊かな公園。また通学路に面しており、定期的な管理作業が必要。

5月12日、三島梅花藻の里の敷地内にある「三島お魚水族館」の清掃を実施。研修生は精力的に取り組んだ。ここは平日の9時から18時まで、源兵衛川に生息する生き物の観察が出来る。

5月22日、台湾の研修生の研修成果発表会を開催。4月26日より約1ヶ月、GW三島の多様な活動に取り組み、まちづくりについて学んだことを、各々40分間ずつ発表。テーマは「台湾の社会事情、台湾社区大学の活動と三島で学んだこと」で、約20名が聴講した。

どちらも台湾の大学や河川、環境問題を説明後、曾佳琦さんは三島での河川清掃や調査活動を通して「三島にとって川は一番の宝だ」と述べた。張琬珮さんは「三島では様々な団体のネットワークのもとに、長期的視野で活動を実践していく重要性を学んだ」と。さらに「台湾では団体が行政に頼っているので、まず自分たちで段階的なアクション計画を立て、戦略的行動する必要性がある」と語った。

今後、6月末には、GW三島から台湾社区大学にて渡辺豊博専務理事が講演を予定。8月には台湾社区大学より河川環境専門家が来日の予定。今後も継続した交流と発展的事業展開が期待される。

腰切不動尊の大祭



5月28日午前中、三島市南本町で、腰切不動尊大祭が行われた。祠の清掃後、龍澤寺僧侶による法要、田町区砂切保存会による奉納シャギリ、グローバル文化交流協会と日大生による紙芝居『腰切不動尊のいいつけ』、御殿川での生き物観察会が行われた。

満100歳の俣野しづさんも息子さんと一緒に参加。近隣の人々の参加も増え、大いに楽しんでいた。俣野さんは、「次は9月の例祭ね」とにっこり。

-1-

研修の成果発表は、三島市民活動センター4階にて、三島や台湾の映像を見ながら英語で行われた。



ジェイさんとチイさんの歓迎会風景



韓国メディアが取材中、源兵衛川で
ちゃんかげ拾いを体験していた日大生
や研修生は、サワガニも発見！



FMRADIO・ボイスキーの「グラウンドワーク三島のアクショントーク」で、2人の研修生が成果を語る。パーソナリティー：渡辺豊博専務理事 小坂真智子さん 通訳：松田徳子さん



2人の研修生の送別会。三島街中カフェの
関係者も参加して盛り上がった。この後2人は、
源兵衛川へ蛍見物に行き、大感激した。

“緒明の杜”から笑顔で見守る三島の未来

N P O 法人グラウンドワーク (G W) 三島名誉会長 緒明 實



「みんながどんどんやってくれるので、私は何も・・」と、いつも控えめな笑顔の紳士が、緒明實理事長だった。包括的に現状を把握し、将来を見据えての優しい眼差しで、関わる多くの人々を応援してくれていた。

大正9（1920）年1月25日、石川県金沢市出身の向田家二男として、東京都杉並村（現東京都杉並区）にて生まれる。慶應義塾大学経済学部に入学し、大学時代は空手部に所属した。第2次世界大戦中は学徒出陣し、陸軍に所属。終戦後、昭和23（1948）年に、緒明家の長女・登美子さんと結婚し、やがて、三島に居住して静岡銀行に在職した。

退職後は、三島ゆうすい会（初代会長）やN P O 法人グラウンドワーク三島（初代理事長）など、数々の三島のボランティア団体で環境保全活動や文化活動に関わるほか、三島ロータリークラブ、財団法人佐野美術館、三島高校（現知徳高校）等でも活躍した。晩年は、茶道裏千家にて、侘び、寂びを嗜んだ。しかし、多くの市民に慕われつつ、平成25（2013）年2月28日、93歳で逝去された。

今回、緒明實さんについて、心に残る思い出を、公益財団法人佐野美術館館長の渡邊妙子さんと、三島ロータリークラブ会員の稻葉良弥さんに語っていただいた。

★渡邊妙子さん談：

公益財団法人佐野美術館は、三島出身の実業家・佐野隆一が私財を投じ、佐野家の別邸であった湧水豊かな回遊式庭園に隣接して建て、昭和41（1966）年に開設しました。緒明實さんは、平成5（1993）年に理事となり、平成13（2001）年～平成17（2005）年の2期4年間、理事長を務められましたが、それ以前から隆泉苑での茶会や謡いに参加されました。ある時、茶道の渡辺光子先生のご要望で、観世の能「羽衣」のシテ・緒明實、ワキ・渡邊妙子で出演することとなりました。台詞は全部暗記しての猛稽古。緒明實さんの能舞台での立ち居振舞いには、持って生まれた品格には肝銘深く、今も鮮明に残る忘れられない1コマです。

平成9（1997）年、「青少年に魅力的な学習機会の提供を円滑に進める『望ましい基準』を満たしている博物館」として、文部省より認定を受けました。緒明實さんの1段と高い品格によって、佐野美術館も格を上げることになりました。創設者・佐野隆一が三島の名誉市民第1号であることもあって、「緒明さんは、名誉市民にどうですか」と聞いてみたところ、「私は、緒明家の財務管理をしているだけだから」と無頓着な様子であり、ここでも持って生まれた品格の1つである謙虚さが伺えました。

★稻葉良弥さん談：

緒明實さんとは、三島ロータリークラブ会員として親しくさせていただきました。實さんの自然に滲み出る人間らしい優しさと温かさに触れ、幸せを感じてきました。彼は数々の会の理事長を務められ、その功績は素晴らしいものでした。彼が三島ロータリークラブ（R C）の会長だった時、次の3つの功績を残されました。

- * 三島大社・出雲大社同士の縁で三島R Cと出雲R Cとが姉妹R C契約を締結し、1年ごとに交流していること。
- * 世界のロータリークラブの会員は男性会員ばかりでしたが、アメリカの女性が女性会員のいないことに対し裁判を起こし、女性会員が参加するようになりました。その後、三島R Cにも、女性会員2名を加えたこと。
- * 三島R Cに茶道部を立ち上げたこと。さらに、三島R Cの有志と勤勉な三島在住の人々を集め、三島政経同友会を立ち上げ、各個人を磨くための勉強会を定期的に行い、18年間続けました。私もこの企画実行者の1人です。

緒明家は西郷隆盛と血縁にあり、毎年東京で一族が集まり「西郷隆盛会」を開催していると聞いたことがあります。

實さんの魅力的な人柄は、他人に対して思いやりがあるということです。昔、私が困った立場になった時、それを感知し一緒に解決してくださいました。その優しさは忘れられません。彼には、影の大物「R Cの月」という表現が相応しいのではと思っています。なお、三島三田会（慶應義塾大学卒業の三島市在住者の会）の会長としては、若手と一緒に行動し、喜び合いました。

緒明實G W三島名誉理事長は、三島の湧水を守り、緑を大切にし、未来ある人々を育ててきた。私たちは、あの優しい笑顔の奥の大きな願いに応えるべく、今も聞こえる温かな応援の言葉を感じ、良い方向へ進んでいくことを改めて反芻している。今も三島には、緒明さんの大切に守ってきた“緒明の杜”がある。“緒明の杜”から笑顔で見守る三島の未来。

ありし日の緒明實さん



緒明實さんは、大岡信さんのお祝いの会の発起人の1人を務められました。



「2002全国グラウンドワークサミット」は、平成14(2002)年に開催されました。グラウンドワーク発祥の地・英国からはロビン・ヘンショウ夫妻もご参加くださいました。

緒明實さんのまなざしは、いつも周りの人々を優しく包み、誰もが張り切って生き生きと環境改善保護活動等に取り組みました。次々と実現していく成果は、数々の賞にもつながり、多くの人々の喜びとなりました。

創業の理念(『誠実な請負人』として社会に尽くす)を胸に刻み



小野建設株式会社 社長

おの せいじさん

(三島市谷田在住)

昭和 23(1948)年 1月、三島市谷田に生まれる。三島市立錦田小学校、三島市立東(現錦田)中学校を経て昭和 38(1963)年県立沼津東高等学校入学。高校 1 年生の国語の授業の時、渡辺悦郎先生に漢文(古文?)の解釈が素晴らしいと褒められ、国語が大好きになったという。それを契機に本もたくさん読むようになり、成績もぐんぐん上昇していった。人生の 1 つの転換点だったと振り返る。当時の読書体験はその後の人生の大きな糧にもなった。昭和 41(1966)年、慶應義塾大学経済学部に入学。大学 4 年時に青年海外交流プログラムでアメリカに渡り、約 1 ヶ月滞在した。大自然や人情味豊かで懐の深い人たち、異文化に触れ、カルチャーショックを受け、世界の窓が開かれたという。

昭和 45(1970)年、大学卒業と同時に、東京の白石建設(株)に入社。3 年後の昭和 48(1973)年、地元に戻り、小野建設(株)に現場係員として入社。営業主任を経て昭和 50(1975)年、総務部次長になる。同時に三島建設業協会に入り広報委員会に所属、時の会長二宮睦治氏を知る。以来長年にわたり薰陶を受けた。特に、仏教を通しての心の持ち方、考え方を教えられ、それが自分の精神的支柱、心の拠り所となっているという。仏教学者ひろさちや氏の著書からも大きな影響を受けたようだ。昭和 58(1983)年、専務取締役、平成 3(1991)年、代表取締役社長に就任、現在に至る。

これまでの会社経営を振り返ってみると、改めて創業者(祖父・小野惣太氏)の偉大さに気付くという。新潟の旧家で比較的裕福な生家や養子先が、ペテン師まがいの土建業者に肩入れしたことが元で没落。ならば「社会のために、真面目な請負人となって彼らを見返してやる」と一念発起。単身東京に出て苦学し、初心を究めるために、苦労ばかり多い飯場生活の下請け業「小野組」を大正 9(1920)年に創始した。その後、打算や成り行きではなく、常に「社会のために」を第一義として取り組み、小野建設の礎を築くとともに、社会の建設にも貢献してきた。「自ら苦しい道を選んだ」という創業者の思いを忖度すれば、その後継者たる自分が、苦難の道を歩むのは、宿命でもあると語る。

氏は単に自社の経営だけでなく、広く地域や静岡県、全国の建設業界のためにも多大な貢献をしてきた。現在静岡県建設業協会副会長、全国中小建設業協会副会長を務めるなどの、指導的役割を果たしている。また、昭和 57(1982)年には「21世紀塾」を立ち上げ、その代表世話人として、地域の発展のためにこれまで 25 回にわたる提言を行ってきた。「富士・箱根・伊豆ナンバーを創設しよう」、「雨の三島を和傘でも

てなそう」、「伊豆再生の鍵はパーク&ウォーク」などはそのほんの一例である。今年は 300 回の記念の年を迎える。

教育界への貢献も大きい。これまでに錦田小学校、同中学校、韮山高等学校、三島北高等学校の PTA 会長を歴任する傍ら、静岡県高等学校 PTA 連合会では副会長の重責も担ってきた。また三島市の佐野美術館評議員やミューズクラブ運営委員を長く務め、平成 29(2017)年 4 月からはミューズクラブ運営委員長に就任した。

平成 19(2007)年 11 月、「一直心」(この道一筋)にやってきた者へ与えられる黄綬褒章を受章した。ほかにも、平成 10(1998)年の全国高等学校 PTA 連合会会長表彰、平成 17(2005)年の林野庁長官感謝状、平成 18(2006)年の国土交通大臣表彰状、平成 29(2017)年の三島市市政功労表彰など、表彰状や感謝状は枚挙にいとまがないほどである。

健筆家でもある。平成 19(2007)年には、それまでに長年書き続けてきたものを「書きなぐり半世紀」と題し、371 ページの冊子にまとめ発刊した。どれも該博な知識に裏付けられていて、簡明で実に面白い。

また、人柄の良さと度量の広さから、各方面から多くのことを頼まれる。それをごく自然体で引き受け、見事にこなしているように見える。そのあたりの秘訣を聞くと、「何事も一生懸命に、かつ楽しくやろうという心掛けで、365 日働いています」という答えが返ってきた。

趣味はゴルフ。昭和 51(1976)年、結婚。一男一女に恵まれた。孫は 4 人。長男は、現在(株)小野建設で専務取締役として活躍中。長女は、結婚し幸せな家庭を築いているとのことである。



2017.3.3 「森林は友達!作文コンクール」で東京林業土木協会会長として表彰を行う



2016.10.26 静岡銀行の取引先の集まりである「三静会」でのスナップ
中央: 静銀中西頭取 右: スカイツリーの宮沢社長 左: 本人



孫(次女)の七五三(三島大社にて)

強く美しい麻糸のように



グローバル文化交流協会事務局
乙部 美麻子さん

昭和 20 (1945) 年 8 月東京生まれ。河野家の 3 人妹弟の長女。父は彫刻家、母は女子美術大学の夏期講習を受講し芹沢鉢介氏から染色を学んだ。その技術を生かして、若い人たちに染色を教え、さらに、反物の染色も手掛けていた。

美麻子という珍しい名前は、「麻糸のように強く、されど美しくあれ」と芸術家の父が名付けてくれた。東京都立豊多摩高校を卒業後、YWCA学院で 1 年間学び、その後就職し、役員秘書として 4 年間勤務。

昭和 44 (1969) 年に結婚。披露宴での母親手作りの衣装とその美しく華やかな姿に、列席者全員から称賛の拍手が上がったという。清水町の社宅で新生活をスタート。やがて、長泉町に自宅を新築。2 男の母。孫は 3 人。

グローバル文化交流協会 (GIA) へは発足当時から入会。現在は事務局のメンバーとして持ち前の明るさを發揮している。沢地グローバルガーデンの作業や、GW 三島のインターンシップやイベントに参加するかたわら「花いっぱい運動」など、地域のボランティア活動にも積極的に取り組んでいる。

ダンスや体操が大好きで、公民館で有志とストレッチ体操をしている。また介護施設などへもボランティアとして訪問し、お年寄りに簡単な健康体操の指導をして喜ばれている。

モットーは「ボケないように、やれることを続ける」。何事にもこだわらない性格で、いつも「何とかなるさ」と思っているとのこと。

パッション No. 28



中郷用水が育む「ブランド米」を目指して

中郷地区は、源兵衛川下流地区として、昔から豊かな大地のもとで水稻栽培が盛んでおいしい米を作っていました。

今年、中郷用水土地改良区は、4 年に 1 度の改選時で、組合員 420 名の中から 13 名の新理事が選任され、新たな活動が始まりました。理事の仕事は、中郷地区の水田 140ha の用水管理、東レ(株)への温調水導入の依頼、三島市河川の清掃作業、玉川ポンプ場清掃、田植え時期における水の配分計画などです。また、年 1 回、県外の土地改良区を視察し、用水管理を中心とした意見交換をして、中郷地区に生かせるよう努めています。

平成 28 (2016) 年 11 月に源兵衛川が「世界かんがい施設遺産」に登録されました。源兵衛川は、歴史的に長い歳月を歩んできた川で、我々の先代の理事、組合員が中郷地区の水田に必要な水源確保のため、楽寿園内的一部分を購入して生み出した川です。時代の変化で汚染された時期もありましたが、市民の保全活動が中郷地区の活性化にもつながりました。これは、歴史的にも永遠に語りつがれていくことでしょう。

今後も、三島市の田園区として市民に愛されるような地域づくりを続け、将来は「中郷ブランド米」として認定されるようなおいしい米づくりに挑戦したいと思います。

歌は「心の声」



【寄稿】 女声合唱「コール・アンダンテ」
指導: 高橋 孝さん 代表: 高橋 紀子さん

昭和 14 (1939) 年沼津市生まれの夫は、県立沼津東高等学校を卒業。昭和 15 (1940) 年三島市生まれの私は、県立三島北高等学校を卒業。共に静岡大学教育学部で学び、各々教師の道を歩んできました。



グラウンドワーク (GW) 三島の城所祖帝さんとは三島市立南中学校同期で、何かとお声をかけて頂き、チャリティーコンサートにも GW 三島の皆様もお誘いください、お世話になっています。「ネパール大地震救援チャリティーコンサート」「熊本地震復興支援チャリティーコンサート」では、小松幸子理事長より謝辞を受けたことも心に響いています。

昭和 63 (1988) 年、近所のお母さん方に要望され、女声合唱「コール・アンダンテ」が誕生しました。「アンダンテ」とは速度を表す音楽用語で「ゆっくりと歩く速さ」という意味です。「ゆっくりと歩く速さ」でいいから常に前進したいという願いが込められています。団員は現在 23 名。三島市及び近隣から、歌うことが好きな人たちが毎週 1 回いろいろな歌との出会いを楽しみ、心のおしゃれをしています。隔年でコンサート開催。合唱祭、芸術祭、市民合唱祭、お母さんコーラス大会等の行事に参加しています。昨年は、三島市制施行 75 周年記念事業の一環である「みしまの文化百花繚乱」事業に推薦され、第 11 回「小さな秋のコンサート」を実施し、好評を得ました。来年は、30 周年記念コンサート開催予定です。常に歌えることへの感謝の心を忘れずに、美しい日本語の響きを求め、心の奥深くまで届く音楽をめざして一步一歩積み重ねてあります。

この世の中で、私たち人間が公平に持っているもの、それは顔でも容姿でも、お金でも財産でも、社会的地位でもありません。それは時間です。時間は目に見えず、においもなく、形もありません。でも、私たち人間にとてこれほど大切なものはありません。その時間を共有し、共に歌う喜びを持てる幸せ「時は金なり」をモットーに、健康で歩き続けることを願っています。

GW三島の活動記録 2017年2月1日～2017年5月31日

月	日	曜	事業名	内 容	場 所	人 数	視察来訪者記録 H29.2.1～H29.5.31		
2	2	水	三島長陵高校テーマ学習	④源兵衛川の生物多様性	三島長陵高校	22	9 白岡市行政区長会	35	埼玉
	4	木	境川・清住緑地ワンデイチャレンジ	竹伐採・外来植物除去	境川・清住緑地	30	20 未来につなぐふるさと基金、現地視察	20	国内各地
	7	火	～8、環境教育	日大三島中学職場体験	源兵衛川等	8	23 沼津東高初任者研修（課題研究）	1	静岡
	17	金	～14、未来につなぐふるさと基金報告会	報告会、懇親会、プロジェクト実践地視察	源兵衛川等	43	3 5 静岡中央高校自然科学部	5	静岡
3	5	日	インストラクター養成講座	実学（境川・清住緑地の植生）	境川・清住緑地	15	3 ～4、日本ステンレス工業株式会社	16	山梨
	11	土	松毛川自然観察会	冬鳥の観察会	松毛川左岸	20	14 津南町教育委員会	5	新潟
	16	木	～17インストラクター養成講座	座学（①魚類、②植生、③野鳥）	西地区コミュニティ防災センター	40	5 18 日本大学国際関係学部青木ゼミ	38	静岡
	18	土	松毛川植樹地保育ワーキャンプ	荒廃竹林伐採、抜根、植樹	松毛川左岸	10			
	22	水	境川・清住緑地ワークショップ	整備構想の検討、意見交換	西地区コミュニティ防災センター	10			
	24	金	専門委員会	生態系調査の分析・評価等	三島街中カフェ	10			
	25	土	松毛川「千年の森」づくり植樹体験会	抜根、ごみ清掃、植樹	松毛川左岸	15			
4			松毛川自然観察会	自然遊び、ボート上からの河畔林観察	松毛川左岸	20			
	26	日	境川・清住緑地ワンデイチャレンジ	間伐、外来植物除去	境川・清住緑地	30			
	3	月	～4、境川・清住緑地ワンデイチャレンジ	竹伐採、間伐、チップ化	境川・清住緑地	40			
	14	金	三島北高ハイパークローバーハイカール講義	ショートレクチャー、レクチャー（小松幸子理事長）	三島北高校	300			
	15	土	境川・清住緑地ワンデイチャレンジ	竹伐採、間伐、チップ化	境川・清住緑地	20			
	26	水	～5/29 視察研修	台湾・社区大学全国促進会研修生受入	三島市内	2			
	28	金	御殿川環境基礎調査	植生調査	御殿川流域	5			
5	7	日	環境コミュニティビジネス	竹の子掘り、竹の子茹で	元山中圃場周辺	43			
	10	水	御殿川環境基礎調査	水生生物・昆虫類調査	御殿川流域	5			
	18	木	韓国放送公社（KBS）取材	「川、都市の命を育む」取材	源兵衛川、三島梅花藻の里等	6			
	20	土	境川・清住緑地ワンデイチャレンジ	竹伐採、間伐、チップ化	境川・清住緑地	20			
	27	土	アクア・ソーシャル・フェス	松毛川千年の森づくり植樹・清掃・観察会	松毛川	220			
	28	日	腰切不動尊例大祭	大祭、歴史の紙芝居	腰切不動尊	60			
	28	日	御殿川水辺の観察会	魚類・水生生物の観察会	御殿川	30			
	28	日	この祭り乱れ咲き 14th	竹製品・雑貨販売、ミニ水族館など	三島商工会議所 TMOホール	7			

源兵衛川環境出前講座：県立清水特別支援学校 44名、
 〈定例作業〉★三島梅花藻の里 17回 ★源兵衛川を愛する会 4回 ★鏡池ミニ公園 2回 ★せせらぎシニア元気工房 毎週火曜日
 ★境川・清住緑地愛護会 4回 ★宮さんの川 毎日 ★桜川 4回 ★雷戸井 4回 ★沢地グローバルガーデン 4回
 〈定例会議〉★インストラクター会議 1回 ★編集会議 10回 〈受託事業〉★三島市フリーマーケット運営 8回
 ★東日本大震災、ネパール地震、熊本地震への募金 随時

2017年度 JT NPO助成事業 助成金交付式

地域コミュニティの再生と活性化にむけての助成を受け、「松毛川・水と緑の『地域アクションクラブ』結成事業」に取り組む。

5月17日、「2017年度 JT NPO助成事業助成金交付式」が名古屋市内で開催された。助成金事業の交付式では、池崎順二JR東海支社長から、渡辺豊博専務理事が交付書を受領した。狩野川旧河川敷に残された止水地の松毛川は、近年急速に環境悪化が進行しており、保全整備が急がれている。

隣接の三島沼津両市の近隣住民、および民間企業に対して松毛川の環境改善・環境保全活動への参加を促し、地域コミュニティの一本化と活性化を目指す。

春の味覚・竹の子掘り開催



5月7日に三島市川原ヶ谷（元山中）地区の竹林で、竹の子掘りを開催した。竹林の自然整備を考えた大切な作業であり、参加した子供には環境保全の方法を学習する機会にもなった。

初めての竹の子掘りに、子供たちも一生懸命取り組み、掘った後すぐに茹でてあく抜きし、土産として持ち帰った。

GW三島では今後も、家庭で楽しめる農業体験を企画開催していく。

交付式で助成金事業の概要説明



GW三島事務局の新スタッフ

山梨県出身
石岡 真由美さん



「箱根西麓三島野菜」

ブランド認定

「エコファーマー」認定

(株)パートナートラストは、GW三島の関連会社で、三島市内の遊休農地を再生・活用し、野菜、米、そば等の地域ブランド創出を目指し、平成27(2015)年3月から、農業法人として本格的な営農に取り組んできた。

平成29(2017)年1月に、人参・大根・馬鈴薯・甘藷等9品目が「箱根西麓三島野菜ブランド推進協議会」(細井要会長)よりブランド認定を受けた。



写真左、認定書を手にする
澤目純一 GW三島スタッフ

3月1日には「持続性の高い農業生産」に関する県の指針に基づき、環境にやさしい農業に取り組む生産者として「エコファーマー」に認定された。

今後も、耕作放棄地の再生を進め、安心安全な農作物を生産していく。

日本大学三島中学生がGW三島の実践地で体験学習



2月7～8日、GW三島の実践地の4カ所を回り、それぞれの場所で作業を行って汗をかいた生徒たちには、記憶に残る貴重な体験となったようだ。

1日目:越沼正GW三島理事の案内で、源兵衛川のちゃんとかけ拾いとカワニナなどの捕獲作業。午後は、境川・清住緑地に移動し広大なビオトープの自然と水の豊かさを学んだ。

2日目:三島梅花藻の里で、山口東司GW三島インストラクターの指導を受け、ミシマバイカモの手入れや清掃作業を行った。午後は、箱根西麓山中圃場に移動し、澤目純一GW三島スタッフと畑に肥料をまく作業や大根の収穫作業を行った。



灰塚川(松毛川)植林予定地整備作業・野鳥観察会・ワンディチャレンジ

3月11日、灰塚川河畔の植樹予定地の整備作業実施。2時間ほどで、長さ約10m幅5mの植樹地基盤を完成。日本野鳥の会東富士副代表の滝道雄講師に、狩野川沿いに生息する野鳥の観察会を実施。参加者は、双眼鏡の使い方を学び、野鳥を観察。ハイライトは、すぐ傍の電柱に止まっていたチョウゲンボウを発見したこと。ハヤブサの1種だが、滑空している姿がトンボに似ているので、この名が付いた。23種もの野鳥が観察でき、皆大満足。

3月18日、竹林伐採跡地の伐根作業から開始。参加者は手作業で、約10m²の竹を刈り取り、造成終了地に100本ほど植樹し、小さな森を完成。



松毛川(灰塚川)植樹体験・ポート上から河畔林観察会実施



3月25日、放置竹林伐採跡地のゴミ拾いと伐根作業。整地済みの河畔に、ケヤキ、エノキなどの苗木30本を植樹。富士自然観察会の山田高会長と小澤緑静岡県環境学習指導員から、子供たちはさまざまな植物について学んだ。小澤指導員手作りの野草入りケーキを味わい、春を満喫。

ネイチャークラフト体験では、笛づくりとパラシュート作りに挑戦。自然にある材料とはさみとテープで、各々納得のいく作品を作製。松毛川では、6人乗りのゴムボートを浮かべ、遊水匠の会の安藤英彰講師に漕ぎ方を教わり、ポート上から河畔林や野鳥を観察。流れ着いた多くのゴミを見て、間と自然との共生について考える機会にもなった。菅原久夫講師からは、自然の大切さを学び、改めて故郷の川と森の貴重性を実感。

境川・清住緑地ワンディチャレンジ

2月4日：南側の湧水池や中の島の周りの外来植物などを除去した。3月26日：中の島の内部とその周囲の環境整備

(間伐、竹伐採、下草刈り、外来植物の除去、湧水池と土羽水路の泥の浚渫(しゅんせつ))。土管に囲まれた井戸を発見！今も美しい水を湧き出している。4月3日：GW三島に視察中の日本ステンレス工業(株)社員らが参加し、南側の湧水池周囲の環境整備を行った。4月15日：引き続き環境整備と間伐材のチップ化に取り組んだ。5月20日：都留文科大学の学生、台湾からの研修生らが参加して環境整備。集積していた間伐材を全てチップ化した。5月14日：境川・清住緑地愛護会定例作業を実施。台湾からの研修生2名も参加し、中心部の草刈作業を行った。定期的な除草作業の必要性を感じた。



見頃で～す！ 源兵衛川の ゲンジボタル

今年は、昨年より4日遅れの5月4日に初観察された。

ゲンジボタルの飛翔状況は、5月28日現在、観察数909匹。観察ゾーンは三石神社から一本松停留場付近だが、三島市では5月24日より、水の苑緑地(かわせみ橋下流側)の街灯を21時で消灯したところ、多くのボタルが飛翔するようになった。

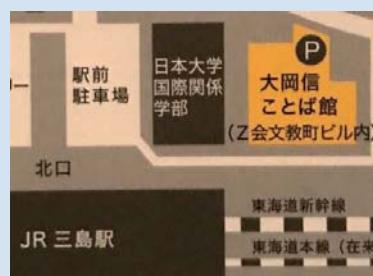
おすすめ街角スポット「大岡信ことば館」

平成29(2017)年4月5日に逝去された詩・大岡信氏は、日本ペンクラブ元会長・文化勲章受章者・三島市名誉市民。

朝日新聞朝刊の「折々のうた」は、1979年1月から2007年3月まで通算6762回にわたり連載された有名なコラム。父博氏の影響で幼い頃から日本の古典文学に深く親しみ、東京大学入学後は欧米の詩や小説、評論をむさぼり読んだという。沼津中学(現県立沼津東高等学校)時代に友人と刊行した同人誌「鬼の詞(ことば)」が展示されている。

ガリ版印刷の紙を綴じた冊子からは文学への熱い情熱が伝わってくるようだ。指先だけで便利にことが進む現在が虚しく感じられた。

JR三島駅北口から東へ歩いて1分。郷土の偉大な詩人の足跡をたどってみませんか。



静岡県立清水特別支援学校高等部2年生・源兵衛川体験学習

5月18日、白滝公園でGW三島インストラクターから、GW三島の活動、富士山からの湧水のしくみや、源兵衛川の成り立ちと生息する生き物について学び、三島市立公園樂寿園から源兵衛川第7ゾーンまで歩いた。生徒たちは、清水特別支援学校の近くを流れる巴川とは異なる、自然豊かな雰囲気に驚いていた。

午後は第7ゾーンで生き物探し。最初は冷たい川に入れないので生徒もいたが、次第に慣れ、生き物探しを楽しんだ。普段あまり見られないトウタカノボリ、アブラハヤなどの魚類、オニヤンマ、コオニヤンマ、ハグロトンボなどのヤゴ、カワニナやヌカエビもたくさん見付け、GW三島インストラクターの解説を熱心に聞いていた。



三島市内の写真集



撮影者：みしま こまち

撮影場所：誓願寺境内（2017年4月26日撮影）

ひとこと：念願のユリノキ（通称：チューリップの木）を誓願寺境内で見ました。北米原産のモクレン科落葉高木で、直径6cmほどの黄緑色のチューリップに似た花をたくさん咲かせます。丁度、見頃に訪れました。

【投稿方法】撮影者の氏名、住所、電話、撮影場所、撮影年月日にひとこと添えて、Eメールに添付し、GW三島事務局までお寄せください。

Eメール：info@gwmishima.jp

ご寄付を
ありがとうございます！

皆様からの募金の趣旨を
生かして、大切に使わせて
いただきます。

*東日本大震災支援募金
2,105円

韓国KBSテレビが取材

5月18日、韓国放送公社KBSの蔚山（ウルサン）総局が、KBS特別企画『川、都市の命を育む』の番組制作で、GW三島による源兵衛川の水辺再生の取り組みの取材に訪れた。

韓国は、20世紀に進められてきた治水対策で河川は形状の画一化、河床の平坦化、無生物的な護岸などにより、河川における生態系の喪失・劣化が生じている。近年では、河川が本来有している生物の良好な生育環境に配慮しながら、美しい自然景観を保全創出する治水の見直しが進んでいる。

市民・NPO・行政・企業とのパートナーシップや、「水の都・三島」を代表する源兵衛川の水辺再生の進め方、住民参加の手法のほか、ミシマバイカモの保護増殖活動や源兵衛川でのちゃんかけ拾い等の実践活動について取材を受けた。三島の魅力や、市民活動の強さを世界へ発信する良い機会となった。



日本大学国際関係学部青木ゼミ生 「フィールドワーク」でGW三島へ

5月18日、日本大学国際関係学部青木ゼミの学生を、三島市内の実践地へ案内した。当日は、GW三島の小松幸子理事長と越沼正理事の案内で、JR三島駅を出発し、鏡池、菰池公園、桜川、白滝公園、三島街中カフェ、源兵衛川などを訪れた。三石神社横の源兵衛川では、ちゃんかけ拾いを体験。僅かな時間で多くのちゃんかけが集まり、清流の代表的な生き物であるサワガニも発見。源兵衛川を初めて訪れた学生もあり、サワガニを見たり触ったりするのも初めてだった。



その後、三島梅花藻の里や腰切不動尊、御殿川と回り、最後に樂寿園で質疑応答の時間を設けた。

後日、青木千賀子教授が届けてくださった学生たちのレポートからは、「フィールドワークで得たものが大きかった」など率直な感想や、課題をもって源兵衛川を再訪したり、川の水質を調べたりするなど、学生たちの自発的に活動している姿が浮かび新鮮だった。

飛び出す編集室



グローバル文化交流協会(GIA)も 台湾研修生の体験受け入れと交流



GW三島の参加団体GIAは、台湾の社区大学の活動を聞く会を開催。また、共に、沢地グローバルガーデンで球根等の植え付け作業やGIAメールの打ち合わせ・発送作業も実施。研修生が、手作り台湾料理を持参した時には皆感激。かるたや手作り品の贈呈をして楽しい時間を過ごした。



真摯な態度で1ヶ月間の研修に取り組んでいた2人の台湾研修生が、ついに研修成果報告会を開催する日になった。GW三島編集室のメンバーも参加した。

GW三島での体験で得たことを台湾の活動に生かしたいと、熱心な報告が続いた。映像には、台湾の様々な現状も示され、参加者には大変興味深く、ゆるぎない信念をもっている2人に応援の拍手を送った。

「もっとじっくり時間をかけて聞きたい内容だった」という感想も聞かれた。2人の活躍を期待したい。

グラウンドワーク三島編集室(50音順) ボランタリーニュース(VN)62号の編集等

河田 恵美子 岸野 和子 城所 徒帝

小松 幸子 斎藤 彩子 前田 充子

水野 幾子 山崎 多紀子 山田 勝造

GW三島事務局担当：村上 茂之